

野田 九条通信

2008年12月号

No.37

「野田・九条の会」事務局

TEL 7122-0502

野田九条の会ホームページ
http://www17.ocn.ne.jp/~art.9/

好評だった

石川文洋講演会・写真展

10月26日から始まった写真展から11月15日の講演会まで、石川文洋さんによる戦争の実態を知る催しは好評のうちに終了しました。15日の講演会の来場者は約200人。ベトナム戦争だけでなく、沖縄の集団自決や田母神発言にまで話は広がり、さまざまな場面で戦争を見

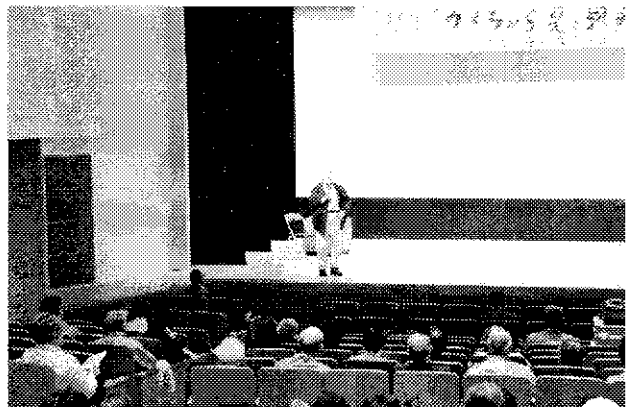
てきた石川さんらしい語りでした。写真展は市役所ギャラリーと樺のホールギャラリーを合わせ、10日間の開催でした。市役所では、用事に来たついでに見て行く人などが多く、樺のホールでは、地域新聞を見て目的意識を持つてきてくれた人など、多彩な方々に戦争の現実

を見ていただけたと思います。

15日は右翼の街宣車の騒音もありましたが、開催にあたりチラシの配布やポスター、チケットやカンパなどなど、たくさんの方のご協力により無事終了できました。ありがとうございます。今年の野田・九条の会の活動は、春は地域九条の会の発足を呼びかけること、夏は平和のための戦争展を担うこと、そし

て秋に石川文洋講演会を開催、これらを通じて憲法九条の大切さを考え、広める行動を行ってききました。

政治は混沌とし、戦争は今も世界のあちこちで続いています。来年は少しでも平和の方向になりますよう、知恵を出し合いまししょう。よいお年を。



九条への想い

今年も十二月八日が巡ってくる。いまの若い人に十二月八日はなんの日?と聞くと、ほとんどが頭を傾げるといふ。私たちは戦争を知る年代の者は一九四一年のあの日早朝、ラジオから流れてきたあの声を忘れることはないだろう。当時、私は十四歳。尋常高等小学校を卒業し通信省(後に郵政省、現在は総務省)に勤めながら夜

間の工業高校へ通っていた。

それから一九四五年八月十五日までの約四年間の数々の出来事は脳裏から失われたことはない。

十二月八日はなんの日?

野田九条の会賛同者 木野崎在住 青木昭二

特に四五年三月十日の東京大空襲の悲惨な光景をこの目で見て、次いで五月に自宅(目黒・自由ヶ丘)も空襲で完全に失った経験、過労で重度の肋膜炎

に倒れ、薬も注射もなく、B29爆撃機の騒音を頭上に聞きながら、絶対安静の日々を過した。これらのことが私の戦争絶対反対の背骨になっているという。民主党

の「立場」だけで、その内容についての批判はほとんど無い。むしろその主張は「日本人の半分くらいが思っている」と首相周辺はみているという。民主党の中にも同調する面々が多くいるともいわれている。憲法九条を敵視する勢力との攻めぎあいには正に正念場にきているのではないかと私は思っている。

「九条への想い」への400字程度の原稿をお待ちしています。

ご参加ください

九条署名活動 12月9日(火)PM4時愛宕駅前
定例会 12月13日(土)PM2時
樺のホール4階研修室



またも 改憲への本音を吐露

—自衛隊トップが政府と異なる見解を発表—

田母神空幕長の論文や発言には、ひじょうな驚きと不安をおぼえた。この論文によれば、日本がアジア諸国に耐えがたい苦しみを与えた侵略国家だったなどというのは「正に濡れ衣」なのである。これらの国々は日本軍によって圧制から解放され、近代化し生活を向上させたのであり、むしろ大東亜戦争を肯定的に評価しているという。このように日本の侵略を正当化どころか美化したうえで、伝統ある軍としての誇りをもって活動できる自衛隊でなければならないとさえ主張している。

これは歴代政権が踏襲し、外交の基本となっている日本の侵略を認めた村山談話を正面から否定する歴史認識である。麻生首相は「現役の前幕僚長にありながらの発言は極めて不適切」として解任はしたものの、懲戒処分とはしなかった。あまりにいい加減な対応だ。

「立場上の不適切さ」の批判にとどめ「政府見解（侵略を認め、謝罪）」を、自衛隊を含めた国民すべてに繰り返し明らかにすることをしないのは何故なのか。これまでも、また今も自民党の政治家が、同様の発言を繰り返してやまないことと、彼が自衛隊の中にこうした歪んだ歴史観を持ち込み、とんとんと空自トップにまで上り詰めたことが、どこかで繋がってはいないのか。

これら一連の動きは、多くの歴史家が指摘したような、史実にたいする無知であるばかりではなく、特別の意図をもった歪曲と言わざるを得ない。このような発言を繰り返すことで国民を揺さぶり、改憲にむかう道に引きずり込もうとする意図がみえてくる。きびしく対処し、注意を喚起しようではありませんか。

村山富市首相談話 1995年

わが国は、遠くない過去の一時期、国策を誤り、戦争への道を進んで国民を存亡の危機に陥れ、植民地支配と侵略によって、多くの国々、とりわけアジア諸国の人々に対して多大の損害と苦痛を与えました。私は、未来に過ち無からしめんとするが故に、疑うべくもないこの歴史の事実を謙虚に受け止め、ここにあらためて痛切な反省の意を表し、心からのお詫びの気持ちを表明いたします。また、この歴史がもたらした内外すべての犠牲者に深い哀悼の念を捧げます。〈抄出〉
(戦後50年の節目に発表された。)

野田南地域九条の会

ドキュメンタリー上映会

「イラクに行った女性兵士の記録」

米軍がイラクに送り込んだ兵士の11%が女性。戦地での体験から帰還後も心の傷に苦しみ家族との関係が壊れる例が後を絶たない。子供たちの「なぜママがイラクに行くの?」「どうして戦争をするの?」という問いにどう答えるのでしょうか。ドキュメンタリーを見て気軽に話しましょう。

12月7日(日)13:30分~16:00

南部梅郷公民館

参加費 無料 連絡先 7124-9206(大井)

かわま九条の会

学習会

「米軍再編と自衛隊」

最近の自衛隊では事故や自殺など事件報道が目立ちます。その一方で、米軍再編が着々と進行しています。無関係に見えるこれらの出来事は密接な関係があるという。身近な問題から今起きていることを考えてみませんか。

12月7日(日)13:30~16:00

野田市北部公民館

講師 永田研二さん(月刊ミニコミ誌「たんぽぽ」)

資料代 300円 連絡先 7129-4849(柳)